

設楽の城塔めぐり

じょうさい

だみねじょう

― 田峯城編(一) ―



田峯城址

田峯城全景

田峰観音の遙か南に望む鳳来寺山との直線上に位置し、独立丘陵地全体を城地としている。北側は湿地帯、西と東側は深い谷、南側は二〇〇メートル直下に豊川が流れる天然の要害に築かれている。豊川左岸から城を眺め、大きく蛇行した川を胴体、城を頭部に見立て、龍の城と呼ばれている。

偏心円の階段状に多くの曲輪で防御され、集落側は耕地のため遺構は失われているが、山頂部に広い本曲輪と見張台、虎口は北と南にある。川側に空堀や土橋が残り、江戸時代初期の諸国古城之図に見られる城の様子を知ることができる。奥三河の代表的な山城である。

現在、城山稻荷社と城址碑や供養塔、模擬的な御殿・物見櫓・城門が造られ、当時を偲ぶことができる。

(愛知県文化財保護指導委員

加藤 博俊)